

米国農務省穀物等需給報告(2018年7月12日発表のポイント)

平成30年7月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、7月12日(現地時間)、2018/19年度の3回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2018/19年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み－

※現時点では、北半球では作付作業中、南半球では未だ作付作業が始まっていないため、本報告は極めて暫定的なものである。

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:25億6,097万トン(対前年度比 0.0%減)
- ② 消費量:26億1,491万トン(対前年度比 1.4%増)
- ③ 期末在庫量:5億8,443万トン(対前年度比 8.4%減)
期末在庫率:22.3%(対前年度差 2.4ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 :米国で春小麦が天候に恵まれ、増加となるものの、乾燥によりロシア、EU等で減少することから、世界の生産量は、前年度より減少する見込み。世界の消費量は、中国等の増加により、増加する見込み。世界全体の消費量が、生産量を上回り、期末在庫量は、前年度より低下する見込み。

- ① 生産量:7億3,626万トン(対前年度比 2.9%減)・・・米国、カナダ等で増加、ロシア、EU等で減少(前月に比べ、EU、豪州で下方修正)
- ② 消費量:7億4,887万トン(対前年度比 1.0%増)・・・中国、インド、米国等で増加、ロシア、EU等で減少(前月に比べ、中国等で上方修正)
- ③ 期末在庫量:2億6,088万トン(対前年度比 4.6%減)・・・中国で増加、ロシア、EU、米国等で減少(前月に比べ、中国等で下方修正)
期末在庫率:34.8%(対前年度差 2.0ポイント減)

とうもろこし :中国、ウクライナ等で増加することから、世界の生産量は、増加する見込み。世界全体の消費量が、生産量を上回り、期末在庫量も減少の見込み。

- ① 生産量:10億5,430万トン(対前年度比 2.0%増)・・・ブラジル、中国、アルゼンチン、ウクライナ等で増加、米国等で減少
- ② 消費量:10億9,408万トン(対前年度比 2.3%増)・・・中国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量:1億5,196万トン(対前年度比 20.7%減)・・・アルゼンチン等で増加、中国、米国、メキシコ、EU等で減少(前月に比べ、中国で下方修正)
期末在庫率:13.9%(対前年度 4.0ポイント減)

米(精米) :作付面積が減少した中国等で減少することから、世界の生産量は、前年度より減少する見込み。世界の消費量は、生産量を上回り、期末在庫量は前年度より低下する見込み。

- ① 生産量:4億8,780万トン(対前年度比 0.2%減)・・・中国等で減少。
- ② 消費量:4億8,791万トン(対前年度比 1.3%増)
- ③ 期末在庫量:1億4,375万トン(対前年度比 0.1%減)・・・中国等で増加
期末在庫率:29.5%(対前年度差 0.4ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

前年度、減産となったアルゼンチン等で回復すると見込まれることから、世界の生産量は、前年度より増加する見込み。中国、アルゼンチン等で需要が拡大するも、世界の生産量は、消費量を上回り、期末在庫量は、前年度より増加する見込み。

- ① 生産量:3億5,949万トン(対前年度比 6.8%増)・・・アルゼンチン等で増加、米国等で減少(前月に比べブラジルで上方修正)
- ② 消費量:3億5,429万トン(対前年度比 4.4%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加(前月に比べ中国で下方修正)
- ③ 期末在庫量:9,827万トン(対前年度比 2.3%増)・・・アルゼンチン、米国等で増加、中国で減少(前月に比べ米国、アルゼンチンで上方修正)
期末在庫率:27.7%(対前年度差 0.6ポイント減)

担当:大臣官房政策課食料安全保障室 西内、池田 (内線3805)

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2018年7月12日発表)

2018.07

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,608.54	2,561.69	2,560.97	▲ 0.0%	▲ 7.9	2,267.7
消費量		2,577.61	2,579.44	2,614.91	▲ 1.4%	▲ 0.4	2,276.8
期末在庫量		656.12	638.37	584.43	▲ 8.4%	▲ 6.5	459.5
期末在庫率		25.5%	24.7%	22.3%	▲ 2.4	▲ 0.2	20.2%
小麦							
生産量		751.99	757.92	736.26	▲ 2.9%	▲ 8.4	658.8
消費量		738.94	741.75	748.87	▲ 1.0%	▲ 2.0	679.8
期末在庫量		257.34	273.50	260.88	▲ 4.6%	▲ 5.3	177.9
期末在庫率		34.8%	36.9%	34.8%	▲ 2.0	▲ 0.6	26.2%
粗粒穀物							
生産量		1,369.83	1,315.17	1,336.91	▲ 1.7%	0.1	1,135.0
消費量		1,355.94	1,356.18	1,378.12	▲ 1.6%	1.8	1,132.5
期末在庫量		262.01	221.01	179.79	▲ 18.7%	▲ 1.8	162.6
期末在庫率		19.3%	16.3%	13.0%	▲ 3.3	▲ 0.1	14.4%
とうもろこし							
生産量		1,078.45	1,033.74	1,054.30	▲ 2.0%	1.9	874.1
消費量		1,060.80	1,069.67	1,094.08	▲ 2.3%	3.7	869.7
期末在庫量		227.66	191.73	151.96	▲ 20.7%	▲ 2.7	131.3
期末在庫率		21.5%	17.9%	13.9%	▲ 4.0	▲ 0.3	15.1%
米(精米)							
生産量		486.71	488.60	487.80	▲ 0.2%	0.4	474.0
消費量		482.74	481.51	487.91	▲ 1.3%	▲ 0.1	464.5
期末在庫量		136.77	143.86	143.75	▲ 0.1%	0.6	119.0
期末在庫率		28.3%	29.9%	29.5%	▲ 0.4	0.1	25.6%

【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		348.12	336.70	359.49	▲ 6.8%	4.3	268.5
消費量		328.87	339.39	354.29	▲ 4.4%	▲ 3.4	263.1
期末在庫量		96.67	96.02	98.27	▲ 2.3%	11.3	55.9
期末在庫率		29.4%	28.3%	27.7%	▲ 0.6	3.4	21.2%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2018)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとおり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2018年7月12日発表)

2018.07

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		472.56	437.29	433.06	▲ 1.0%	7.1	353.0
消費量		363.62	360.87	365.13	▲ 1.2%	1.9	317.1
輸出量		96.71	94.34	90.88	▲ 3.7%	2.8	51.6
期末在庫量		95.76	86.01	71.14	▲ 17.3%	1.9	44.2
期末在庫率		20.8%	18.9%	15.6%	▲ 3.3	0.2	12.0%
小麦							
生産量		62.83	47.37	51.21	▲ 8.1%	1.5	61.3
消費量		31.86	29.32	31.49	▲ 7.4%	0.3	37.8
輸出量		28.60	24.52	26.54	▲ 8.2%	0.7	27.5
期末在庫量		32.13	29.95	26.80	▲ 10.5%	1.1	19.5
期末在庫率		53.1%	55.6%	46.2%	▲ 9.4	1.1	29.9%
粗粒穀物							
生産量		402.61	384.26	375.09	▲ 2.4%	5.3	285.3
消費量		327.53	327.46	329.58	▲ 0.6%	1.5	275.5
輸出量		64.46	66.96	61.11	▲ 8.7%	2.2	20.7
期末在庫量		62.17	55.04	43.00	▲ 21.9%	0.8	23.5
期末在庫率		15.9%	14.0%	11.0%	▲ 2.9	0.1	7.9%
とうもろこし							
生産量		384.78	370.96	361.46	▲ 2.6%	4.8	273.2
消費量		313.83	317.77	318.28	▲ 0.2%	0.4	263.0
輸出量		58.27	60.96	56.52	▲ 7.3%	3.2	18.5
期末在庫量		58.25	51.50	39.43	▲ 23.4%	▲ 0.6	20.9
期末在庫率		15.7%	13.6%	10.5%	▲ 3.1	▲ 0.3	7.4%
米(精米)							
生産量		7.12	5.66	6.76	▲ 19.4%	0.3	6.3
消費量		4.23	4.10	4.06	▲ 1.0%	0.1	3.8
輸出量		3.65	2.86	3.24	▲ 13.3%	▲ 0.0	3.4
期末在庫量		1.46	1.03	1.34	▲ 30.1%	0.0	1.2
期末在庫率		18.5%	14.8%	18.4%	▲ 3.6	▲ 0.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		116.92	119.52	117.30	▲ 1.9%	0.8	82.8
消費量		55.71	58.94	59.33	▲ 0.7%	1.2	48.6
輸出量		58.96	56.74	55.52	▲ 2.2%	▲ 6.8	36.1
期末在庫量		8.21	12.64	15.77	▲ 24.8%	5.3	3.8
期末在庫率		7.2%	10.9%	13.7%	▲ 2.8	5.0	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2018)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

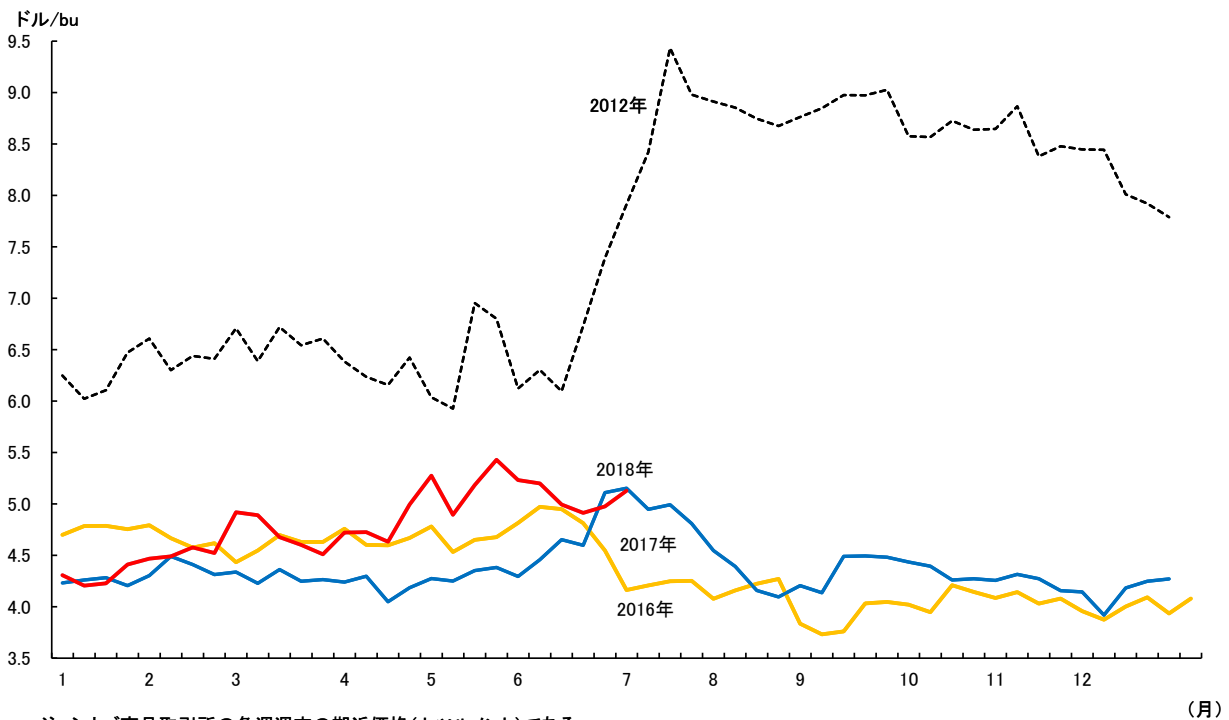
(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2018年)

- 小麦 : 5.12 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.15 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における7月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2017年1月以降、米国や黒海沿岸地域の冬小麦の凍害懸念や米国の低水準な冬小麦作付面積推定も、収穫期の豪州、アルゼンチンの豊作見込み等から4ドル/bu台前半で推移した。6月以降、米国大平原北部の高温・乾燥等から5ドル/bu台前半まで値を上げたものの、7月以降、米国での順調な収穫進展、ロシアの豊作見込み等から4ドル/bu前後まで値を下げた。9月中旬から10月初旬は、生育中の豪州、アルゼンチンでの天候懸念から4ドル/bu半ばで推移したものの、その後は世界的に供給が潤沢であること等から3ドル台後半まで値を下げた。12月下旬、米国大平原の冬小麦産地への寒波到来による凍害懸念から4ドル/bu台前半まで値を上げた。

2018年1月以降、世界的に潤沢な供給も、米国大平原南部の冬小麦産地で乾燥による作柄悪化懸念から値を上げた。4月以降、米国の作付意向面積の拡大も同国での低温による冬小麦の作柄懸念や春小麦の作付け遅れから5ドル/bu半ばまで上昇。その後、春小麦の生育懸念の緩和及び作柄の改善期待、市場予想を上回る米国の実作付面積報告や冬小麦の収穫の進展から値を下げたものの、乾燥によるロシア等の生産減懸念等から、現在は5ドル/bu台前半で推移。

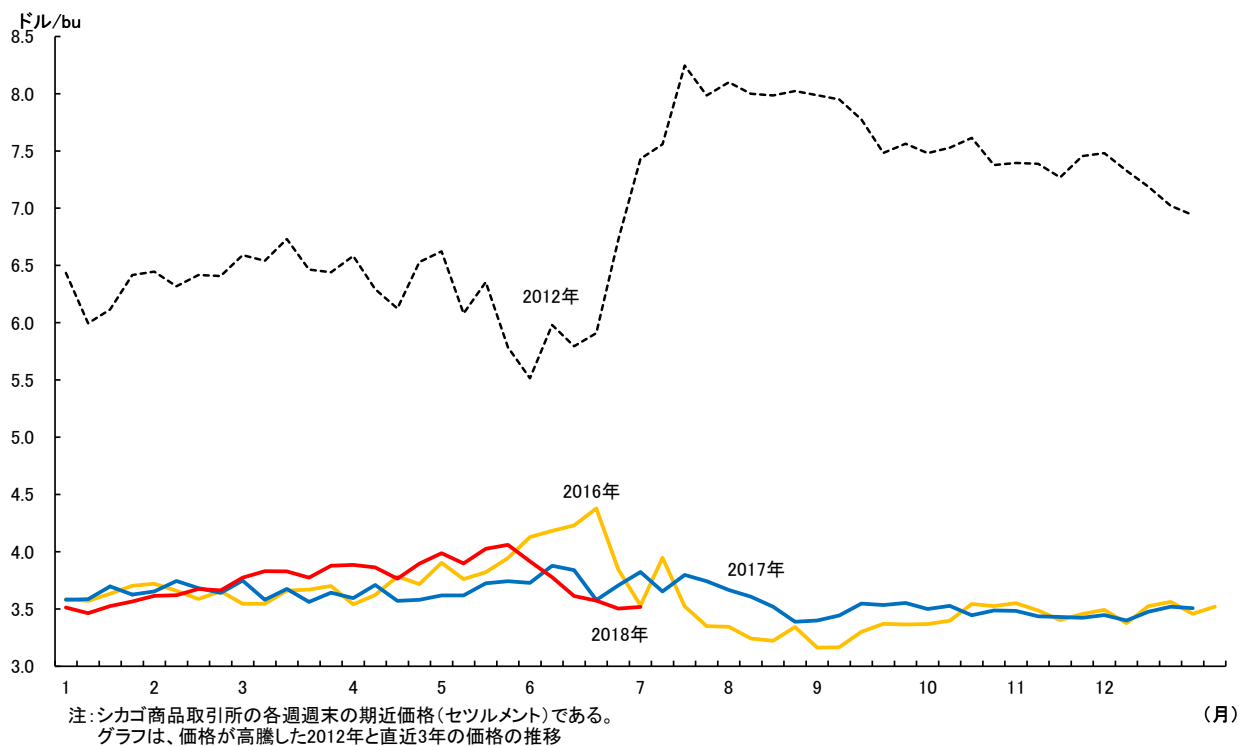


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし： 3.52 ドル/bu （前年同時期の価格：3.82 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における7月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2017年1月以降、米国で堅調なエタノール需要も、南米の豊作見通し等から、3ドル/bu半ばで安定的に推移。6月に入り、米国中西部での高温・乾燥型の天候による作柄悪化懸念から3ドル/bu台後半まで値を上げたものの、7月末以降、天候改善により値を下げ、3ドル/bu台半ばで推移した。

2018年1月以降、世界的に潤沢な供給も、アルゼンチンで乾燥による作柄悪化懸念、米国作付意向面積の市場予想を上回る減少や米国中西部の作付け遅れ、ブラジルの作柄悪化見通しから4ドル/bu台に上昇したものの、6月以降、米国で生育環境が改善され作柄評価が良好となったことから、現在は3ドル/bu台半ばで推移。

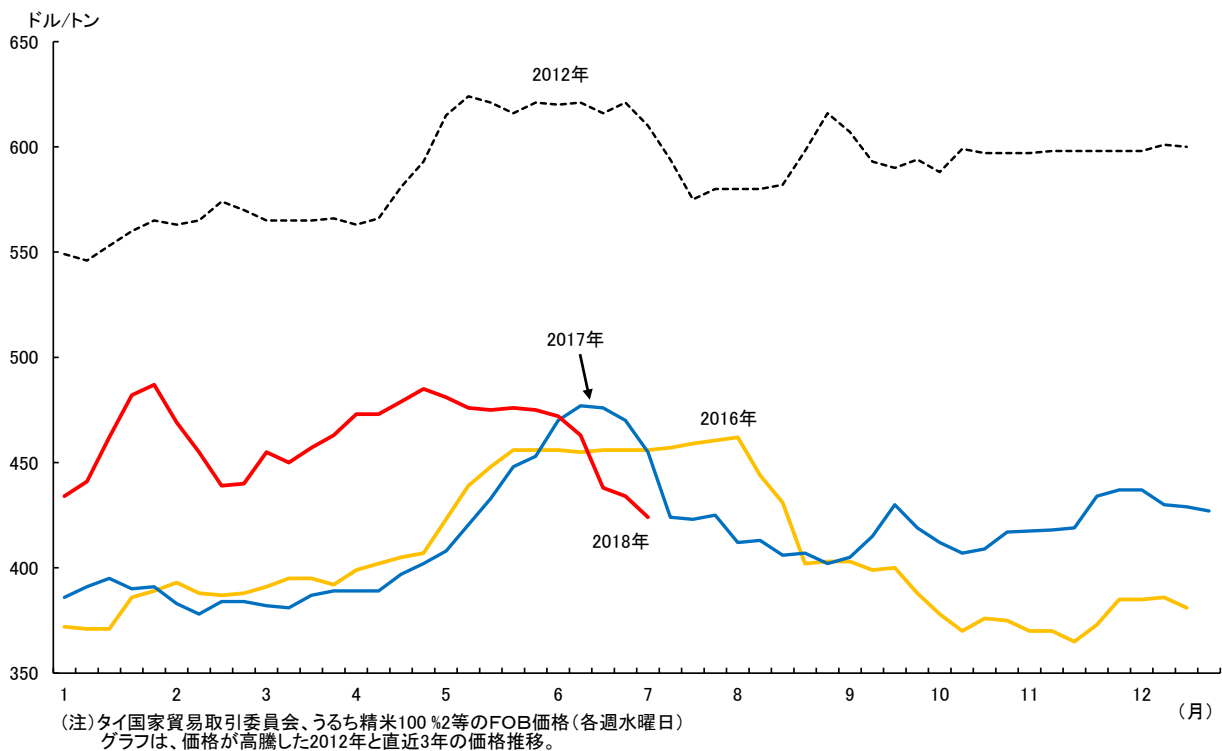


● 米： 424 ドル/トン （前年同時期の価格：455 ドル/トン）

（価格は、タイ国家貿易取引委員会における7月第1週の水曜のFOB価格。）

2017年5月以降、アジア・中東諸国等の輸入需要から470ドル/トン台まで一時値を上げたものの、7月以降の輸入需要の緩和により410ドル/トン台まで値を下げた。11月半ば以降、タイで洪水による雨季米の収穫遅延から、430ドル/トン前後まで値を上げた。

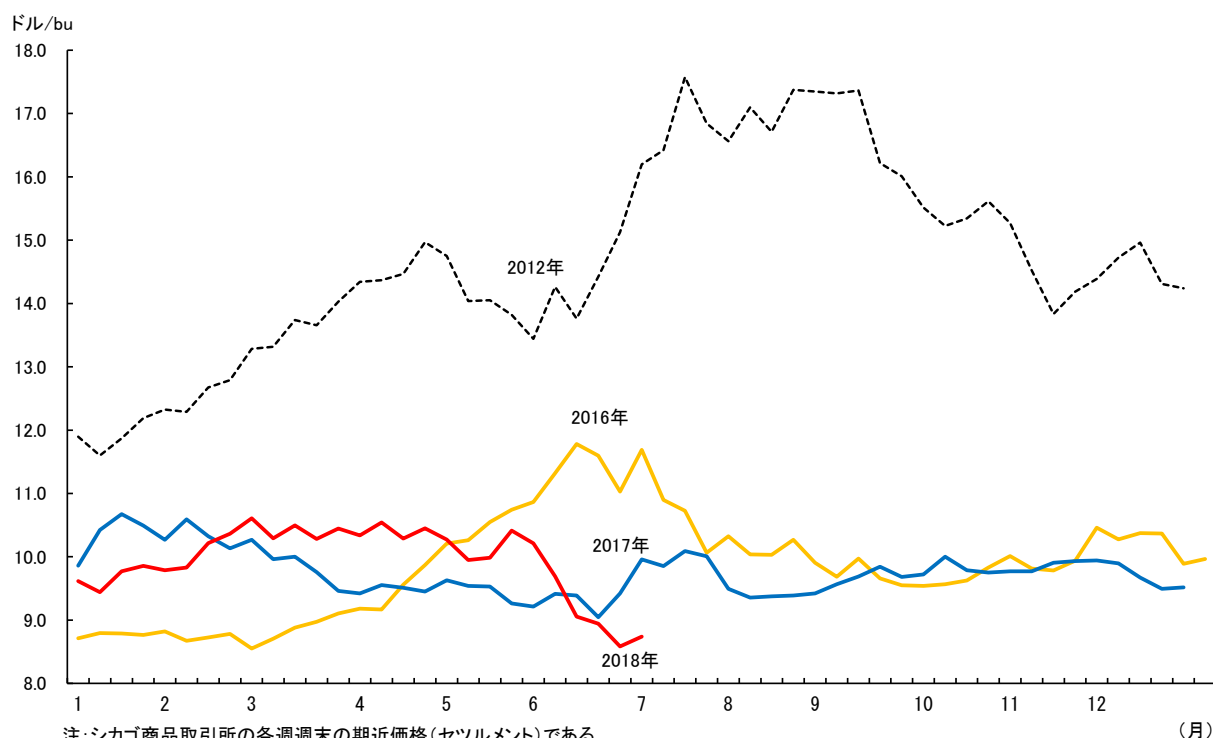
2018年1月以降、バーツ高やインドネシア、フィリピン等による輸入需要から480ドル/トン台まで値を上げたものの、米需要の落ち着きやタイ雨季作の新穀出回り期待から値を戻した。その後、再びインドネシア、フィリピン等の需要増から上昇したものの、6月に入り輸入需要の緩和、乾季米の市場流通が間近なことから値を下げ、現在は420ドル/トン台で推移。



● 大豆：8.74ドル/bu（前年同時期の価格：9.96ドル/bu）
 （価格は、シカゴ商品取引所における7月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2017年1月上旬、アルゼンチンの降雨過多による作柄悪化懸念により10ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、1月下旬以降はアルゼンチンの天候回復、ブラジルの豊作見通しにより9ドル/bu前後まで値を下げた。6月末以降、米国中西部の高温・乾燥型の天候による作柄悪化懸念等から10ドル/bu前後まで値を上げた。8月には、米国中西部の天候改善により一時9ドル/bu台前半まで値を下げ、その後は9ドル/bu台後半で推移。12月下旬以降、ブラジルで生育に適した天候に恵まれ、9ドル/bu台半ばまで値を下げた。

2018年1月以降、ブラジルで順調な生育も、アルゼンチンの乾燥による作柄悪化懸念から値を上げた。その後、米国の市場予想を上回る作付意向面積の減少も、ブラジルの収穫の伸展、米中の通商摩擦の懸念、例年並みの米国の播種進捗から10ドル/bu前後で推移した。5月下旬に米中間で米国産農産物の輸入拡大合意やブラジルのトラック運転手のストライキから10ドル/bu台半ばまで上昇。5月末、ストの収束や米国の平年を上回る播種作業の進展から10ドル/bu台前半に低下。6月に入り、米国301条発動を受けた中国の米国産大豆に対する対抗措置の発表、米国の良好な生育状況から更に値を下げ、現在は8ドル/bu後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(月)

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	114.73	113.06
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
113.01	110.06	112.21	110.91	112.44	109.91	110.68	112.96	112.92	112.97	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
107.82	106.00	107.43	109.69	110.03						

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	36.20	36.00
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
38.00	37.25	35.80	35.25	37.00	37.80	39.75	42.40	42.00	44.25	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
44.25	45.50	44.25	43.40	43.60						

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain
Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値(2018年6月は、6月6日から7月3日までの週別の平均値)。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	52.61	53.46
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
49.67	51.12	48.54	45.20	46.68	48.06	49.88	51.59	56.66	57.95	63.66
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
62.18	62.77	66.33	69.98	67.77						

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成30年6月, 122頁
但し、2018年6月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status
Report」の週別価格の平均値。